

就職・ キャリア支援課通信

卒業生の就職状況について

2月末時点での本学に対する求人件数は1468件で、前年比マイナス19件、内定者は、前年比マイナス15%となっています。ただし、7～2月の内定者は、前年比プラス19%となっています。

1・2月には、優良企業からの追加採用の求人が多く、内定数の増加に繋がったと思います。ただし、就職状況の厳しさは変わりません。就職先が決まるまで支援を続けますので、卒業後も就職・キャリア支援課へご相談ください。

なお、卒業生の就職実績については次回の広報誌にて、最終就職率、主な就職先をご紹介します。

新4年生への就職支援活動について

1月31日に学内で合同企業説明会を開催し、100社近くの企業と500名以上の学生が参加しました。学生は採用担当者の説明を熱心に聞き入っていました。参加いただいた企業のほとんどでは、本学OBが活躍し、久留米大学の学生を採用したい企業ばかりです。いずれも安心して紹介できるところばかりですので内定に繋げて欲しいと思います。

今年度も採用が大幅に増えたといふ状況にはないようですが、学生の皆さんには、根気強く頑張って欲しいと思います。

(就職・キャリア支援課)

課長 佐多慎輔)



法学部の進路先と就職支援について

法学部には 他学部ではない多様な 進路が開かれています

法学部生の就職先として一番多いのはもちろん民間企業です。多くの法学部生が企業への就職を目指して学業に励んでいます。しかし、法学部では公務員を目指す学生が全体の3割近くおり、公務員の合格者数も他学部と比べて突出しています。昨年度(平成22年度)は延べ44名の合格者を出しており、国家Ⅱ種(行政)1名、国税専門官2名、地方公務員5名(福岡県職員、福岡市職員を含む)、消防士2名、警察官27名、刑務官2名、自衛官5名など

の合格者を出しています。ちなみに警察官の合格者数は、九州圏内の大学で第2位となっています。また、既卒者ではありますが、難関の司法書士試験の合格者も出ました。本学には法科大学院があり、法曹の世界(弁護士や裁判官など)を目指して進学する学生もいます。

法学部には 公務員志望者を支援する 態勢が整っています

法学部には法律学科と国際政治学科が開設されています。法学部の進路先、就職支援についてはどのような特色がみられるのか、以下説明します。

法学部には法律学科と国際政治学科が開設されています。法学部の進路先、就職支援についてはどのような特色がみられるのか、以下説明します。

公務員試験に合格するためには早い段階での準備と対策が必要です。まずは1・2年生を中心に行なう法検定の受験を勧めており、各種資格試験の準備をさせています。高レベルの法學習を志す学生には2年次からブレフ課程、3年次から法曹課程を設置しています。また、公務員試験対策を兼ねた授業科目としては公共特講、私法特講、公法特講などがあり、熱心なベテランの先生方が指導されています。正規の授業科目以外にも課外講座が設けられており、各種資格試験対策を行っています。

学部の就職通信 法学部の進路先と就職支援の特色について

法学部には 他学部ではない多様な 進路が開かれています

また、普通の法学部とは違い、国際政治学科を併設しているために、マスクやアカデミズムの世界を志す学生も多数います。昨年まで2年連続してNHKの内定者を出し、看板のアナウンサーとして活躍している人もいます。就職先としては難関である新聞社や出版社から内定をもらつた学生や、研究者を目指して九州大学、熊本大学、広島大学あるいは久留米大学の大学院に進学する人もいます。つまり、法学部には他学部ではない多様な進路が実は開かれているのです。

今後の進路支援の 取り組みについて

法学部は公務員志望者が多いために、他学部とは違った取り組みが必要になります。公務員志望者と民間企業志望者にはそれぞれ違った対応が必要です。本年度は3年ゼミにおいて公務員志望者全員の面談を行つて試験準備が万全か、自分の到達レベルに合った公務員試験を目指しているか、民間企業への就職もきちんと視野に入れて対策を行つているかの確認を行いました。今後は2、3年生を中心に行なう年別・学科別ガイダンスも行い、自分の進路についての確認や意欲を高め機会を増やしていく予定です。公務員試験だけではなく民間企業の就職にも強い法学部にするために日々努力しています。

(法学部教授・就職委員長 前田俊文)

NEXT

シリーズで各学部の取り組みを紹介しています。
次回は経済学部です。